

Sun SPARC Enterprise™ M4000/M5000 サーバー

プロダクトノート XCP 1092 版



Part No. 821-2786-10
2010 年 5 月, Revision A

Copyright © 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. Government Rights. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065 および富士通株式会社 〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社ならびに富士通株式会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート XCP 1092 版 1
 - XCP 1090、1091、および 1092 の新機能 1
 - Active Directory および LDAP/SSL 2
 - Active Directory をサポートするための XSCF の設定 4
 - LDAP/SSL をサポートするための XSCF の設定 4
 - proxyuser システムアカウント 5
 - XCP のアップグレードおよびダウングレード 5
 - XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップグレード 5
 - XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード 5
 - 特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動 6
 - XCP ファームウェアのダウングレード 6
 - ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件 7
 - Solaris パッチ要件 8
 - Solaris 10 5/09 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) 8
 - Solaris 10 10/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) 8
 - Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用) 8
 - Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサまたは SPARC64 VI プロセッサ、あるいは両方を使用) 9

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)	9
Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを使用)	9
Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用)	10
Solaris 10 11/06	10
Solaris パッチの入手方法	11
Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ	11
QLogic PCIe カードのパッチ	12
機能の問題と制限事項	12
SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項	12
一般的な機能の問題と制限事項	12
追加情報および手順	14
システムへのログイン	14
WAN ブートサーバーからのブート	14
Sun Java Enterprise System	15
▼ Web Console SMF サービスを有効にする方法	16
システム内の縮退メモリの識別	16
▼ システム内の縮退メモ리를識別する方法	16
2. ハードウェアに関する情報	17
ハードウェアに関する問題と回避方法	17
単一の J4200 JBOD ストレージアレイからの複数のシステムのブート	17
Sun Crypto Accelerator 6000 カード	18
U320 PCIe SCSI カード	18
ハードウェアドキュメントの変更予定	18
3. ソフトウェアに関する情報	19
XCP の問題と回避方法	19
Solaris OS に関する問題と回避方法	20
サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題	20

Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題	24
Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題	24
Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題	25
Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題	28
Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題	31
ドキュメントの変更予定	34
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リ ファレンスマニュアル』	35
『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユー ザーズガイド』	38

はじめに

このプロダクトノートには、XCP 1090、XCP 1091、および XCP 1092 の各ファームウェアリリースにおける、Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。このドキュメントは、コンピュータネットワークに関する実用的な知識と、Oracle Solaris オペレーティングシステムに関する高度な知識を持つ、経験のあるシステム管理者を対象としています。

一部のサーバー名は、読みやすいように省略されています。たとえば、SPARC Enterprise M5000 サーバーまたは簡単に M5000 サーバーと記載されている場合、正式な製品名は Sun SPARC Enterprise M5000 サーバーです。

注 – プロダクトノートのほうが発行頻度が高いため、原則的にプロダクトノートの内容が他の製品ドキュメントの内容に優先します。ただし、内容に矛盾がある場合は、それぞれのドキュメントのタイトルページにある発行日を比較してください。

関連ドキュメント

関連ドキュメントについては、次の表を参照してください。これらのドキュメントはすべてオンラインで入手できます。ix ページの「[関連ドキュメントの参照先](#)」を参照してください。

注 – 次のドキュメント内の用語集はすべて削除され、表に記載した別の用語集ドキュメントとして提供されています。

用途	タイトル
最新情報	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバプロダクトノート』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート』
概要	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバ製品概要』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ製品概要』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要』
計画	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバ設置計画マニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ設置計画マニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ設置計画マニュアル』
安全性/適合性	『Sun SPARC Enterprise M3000 Server Safety and Compliance Guide』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 Servers Safety and Compliance Guide』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 Servers Safety and Compliance Guide』
ご使用の手引き	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバはじめにお読みください』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバはじめにお読みください』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバはじめにお読みください』 – 出荷用キットにも含まれています。
計画/設置	『Sun SPARC Enterprise Equipment インチラック搭載ガイド』 (Sun Rack 1000、900、および Sun Rack II)
設置	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバインストールレーションガイド』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバインストールレーションガイド』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバインストールレーションガイド』 – 出荷用キットにも含まれています。
保守	『Sun SPARC Enterprise M3000 サーバサービスマニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバサービスマニュアル』 『Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』
用語集	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ用語集』

用途	タイトル
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』
ソフトウェア管理	『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド』
ソフトウェア管理	Sun Management Center (Sun MC) ソフトウェア追補マニュアル
キャパシティオンデマンド (COD) の管理	『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバキャパシティオンデマンド (COD) ユーザーズガイド』

関連ドキュメントの参照先

ハードウェアドキュメント:

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m3k~m3000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m4k~m4000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m5k~m5000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m8k~m8000-hw?l=ja#hic>
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k~m9000-hw?l=ja#hic>

ソフトウェアドキュメント:

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.m9k~m9000-sw?l=ja#hic>

Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメント:

<http://docs.sun.com>

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

機能	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてご意見がありましたら、<http://docs.sun.com> の Feedback[+] リンクをクリックしてください。ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート XCP 1092 版』
(Part No. 821-2786-10)。

第1章

Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート XCP 1092 版

このドキュメントでは、XCP 1090、XCP 1091、および XCP 1092 ファームウェアリリースについて説明します。この章では、次の内容について説明します。

- [1 ページの「XCP 1090、1091、および 1092 の新機能」](#)
- [7 ページの「ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件」](#)
- [8 ページの「Solaris パッチ要件」](#)
- [5 ページの「XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップグレード」](#)
- [12 ページの「機能の問題と制限事項」](#)
- [14 ページの「追加情報および手順」](#)

XCP 1090、1091、および 1092 の新機能

- XCP 1092 リリースでは、XCP 1091 リリースで導入された、Active Directory 機能および LDAP/SSL 機能に関する情報、ならびに関連するマニュアルページが更新されています。
- XCP 1092 ファームウェアは、新しいコマンド `setpacketfilters(8)` および `showpacketfilteres(8)` をサポートする最初の XCP リリースです。man(1) コマンドを使用して、新しいマニュアルページを参照してください。
- XCP 1091 ファームウェアでは、Active Directory 機能および LDAP/SSL 機能が導入されました。[2 ページの「Active Directory および LDAP/SSL」](#)、これらのコマンドのマニュアルページ、および [34 ページの「ドキュメントの変更予定」](#) を参照してください。

- XCP 1090 ファームウェアは、XSCF コマンド `showdateoffset(8)` をサポートする最初の XCP リリースです。詳細については、マニュアルページを参照してください。
- XCP 1090 ファームウェアは、SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサをサポートする最初の XCP リリースでした。これより前の XCP ファームウェアリリースは、高速化されたバージョンであるこのプロセッサをサポートしていません。このプロセッサは、速度以外のあらゆる面において、機能上すべての SPARC64 VII プロセッサと同一です。[7 ページの「ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件」](#)を参照してください。

Active Directory および LDAP/SSL

XCP 1091 リリースでは、Active Directory® 機能および LDAP/SSL 機能のサポートが実装されました。これらの機能に対する一部の変更は、XCP 1092 リリースで導入されたものです。この項では、これらの機能に関する最新情報を示します。

- Active Directory は、Microsoft™ Corporation が提供する分散型のディレクトリサービスです。LDAP ディレクトリサービスと同様に、ユーザーの認証に使用されます。
- LDAP/SSL (旧称 LDAP over SSL) では、Secure Socket Layer (SSL) 技術によって LDAP ユーザーのセキュリティが強化されます。ユーザーの認証には LDAP ディレクトリサービスを使用します。

注 – セキュリティ上の理由から、XSCF では Active Directory サーバーまたは LDAP/SSL サーバーとの通信に LDAP over SSL だけが使用されます。

Active Directory と LDAP/SSL のいずれも、ユーザーの資格情報を認証する機能とともに、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセスレベルを認可する機能を提供します。システムリソースにユーザーがアクセスする前に、認証を使用してユーザーの ID を確認し、ユーザーに特定のアクセス権限を付与することによって、ネットワーク接続されたリソースに対するユーザーのアクセス権を制御します。

ユーザーの権限は、XSCF 上で設定されるか、ネットワークドメイン内の各ユーザーのグループメンバーシップに基づいてサーバーから取得されます。ユーザーは、複数のグループに所属できます。Active Directory または LDAP/SSL では、ユーザードメインの設定順序に従ってユーザーを認証します。(ユーザードメインとは、ユーザーの認証に使用される認証ドメインです)。

認証が完了した後は、ユーザーの権限を次の方法で決定できます。

- 最も単純な場合は、XSCF での Active Directory または LDAP/SSL の設定を通じて、ユーザーの権限を直接決定できます。Active Directory および LDAP/SSL には、いずれも defaultrole パラメータが存在します。このパラメータが設定されている場合、Active Directory または LDAP/SSL を通じて認証されるすべてのユーザーに対して、このパラメータで設定されている権限が割り当てられます。Active Directory または LDAP/SSL サーバでユーザーを設定するときに必要なのは、パスワードのみであり、グループメンバーシップは関係しません。
- defaultrole パラメータが設定されていない場合、ユーザーの権限は、ユーザーのグループメンバーシップに基づいて Active Directory または LDAP/SSL サーバから取得されます。XSCF 上で、Active Directory または LDAP/SSL サーバにある対応するグループ名を使用して group パラメータを設定する必要があります。各グループには、XSCF 上で設定されている権限が関連付けられます。ユーザーが認証されると、ユーザーのグループメンバーシップを使用してユーザーの権限が決定されます。

設定できるグループには、administrator、operator、および custom という 3 つのタイプがあります。administrator グループまたは operator グループを設定する場合、必要となるのはグループ名のみです。

administrator グループには、platadm、useradm、および auditadm 権限が関連付けられます。operator グループには、platop および auditop 権限が関連付けられます。custom グループを設定するには、グループ名と権限の両方が必要です。グループのタイプごとに、グループを 5 つまで設定できます。複数のグループに割り当てられたユーザーが受け取る権限は、それらのグループに関連付けられているすべての権限を合計したものになります。

これらの新しい機能をサポートするため、XSCF Web の Settings メニューに、2 つの新しい設定画面 (Active Directory および LDAP/SSL) が追加されました。リモートユーザーは、Active Directory または LDAP/SSL のいずれかで認証されると、XSCF Web にログインして XSCF Web を使用できます。

注 - Active Directory ユーザーまたは LDAP/SSL ユーザーは、ユーザー公開鍵ではなく SSH とパスワードを使用して XSCF ネットワークにログインしてください。公開鍵をすでにアップロードしている場合は、次のコマンドを使用して削除します。

```
XSCF> setssh -c delpubkey -a -u proxyuser
```

Active Directory をサポートするための XSCF の設定

setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドを使用して、Active Directory の設定をコマンドラインから設定および表示できます。

デフォルトでは、Active Directory のサポートは無効になっています。Active Directory のサポートを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad enable
```

Active Directory のサポートを無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
XSCF> setad disable
```

Active Directory のサポートが有効または無効のいずれになっているかを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showad
```

setad コマンドをさまざまなパラメータとともに使用して、Active Directory を設定します。たとえば、このコマンドを使用して、1 つのプライマリ Active Directory サーバと 5 つの代替 Active Directory サーバを設定する、グループ名と権限を割り当てる、特定のユーザードメインを設定する、診断メッセージのロギングを制御することなどができます。ユーザードメインは、XSCF 上で setad userdomain コマンドを使用して明示的に設定することも、ログインプロンプトに *user@domain* 形式で入力することもできます。

setad(8) および showad(8) のマニュアルページを参照してください。

注 – Active Directory を設定および使用した後は、ファームウェアをダウングレードしないでください。ただし、以前のリリースにダウングレードする必要がある場合は、ダウングレードの直後に

restoredefaults -c xscfu コマンドを実行してください。

LDAP/SSL をサポートするための XSCF の設定

setldapssl(8) コマンドおよび showldapssl(8) コマンドを使用して、LDAP/SSL の設定をコマンドラインから設定および表示できます。これらのコマンドは、setad(8) コマンドおよび showad(8) コマンドで Active Directory を対象として実行する内容を LDAP/SSL に実行するものであり、同一のパラメータを数多くサポートしています。

詳細については、setldapssl(8) および showldapssl(8) のマニュアルページを参照してください。

proxyuser システムアカウント

Active Directory および LDAP/SSL をサポートするために、XCP 1091 リリースでは proxyuser という新しいシステムアカウントが追加されています。Active Directory 機能または LDAP/SSL 機能を使用する場合は、事前に同じ名前のユーザーアカウントがないことを確認する必要があります。同じ名前のユーザーアカウントがあった場合は、deleteuser(8) コマンドを使用してアカウントを削除し、XSCF をリセットしてからこれらの機能を使用します。

XCP のアップグレードおよびダウングレード

XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップグレード

ファームウェアのアップグレードについては、『Sun SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。

注 - XCP ファームウェアをアップグレードした後で、rebootxscf(8) コマンドを使用して XSCF をリセットします。

XCP 1050 より前のバージョンからのアップグレード

XCP 1050 より前のバージョンを現在実行している場合は、XCP 1090、1091、または XCP 1092 に直接アップグレードすることはできません。最初に、中間バージョンである 1050 ~ 1070 (1050 と 1070 を含む) の XCP にアップグレードする必要があります。以前の XCP リリースへのアクセスについては、Oracle の担当者にお問い合わせください。

注 - admin という名前のアカウントがある場合は、XCP 1050 以降にアップデートする前に、deleteuser(8) コマンドを使用してそれらのアカウントを削除します。admin アカウント名は、XCP 1050 以降で予約されています。

特定タイプの XCP アップグレード実施後に必要となるドメイン再起動

XCP バージョン 1050 ~ 1070 (1050 と 1070 を含む) から XCP 1090、1091、または XCP 1092 へのアップデートの間に動作中であったドメインでは、Dynamic Reconfiguration (DR) を実行して SPARC64 VII プロセッサを追加または交換する場合、OpenBoot PROM ファームウェアをアップデートする必要があります。OpenBoot PROM ファームウェアは、XCP をアップデートし、ドメインを再起動するとアップデートされます。このため、SPARC64 VII プロセッサを追加したか交換したかにかかわらず、ファームウェアを最新の XCP リリースにアップデートした後は、すべてのドメインを再起動します。

XCP ファームウェアのダウングレード

XCP ファームウェアを以前のリリースにダウングレードしないでください。ただし、XCP 1092 ファームウェアを XCP 1091 リリースまたは XCP 1090 リリースに、あるいは XCP 1091 リリースを XCP 1090 バージョンにダウングレードする必要がある場合は、次のコマンドを実行して従来のスタイルの監査ログをクリアします。

```
XSCF> restoredefaults -c xscfu
```

ファームウェア、オペレーティングシステム、およびブラウザの最小要件

新規導入時の Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーには、Solaris Operating System および Sun Java Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

表 1-1 に、SPARC64 VI および SPARC64 VII プロセッサに必要なファームウェアおよびオペレーティングシステム (OS) の最初のバージョンを示します。

表 1-1 ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョンの最小要件

プロセッサのタイプ	XCP の最小バージョン	オペレーティングシステムの最小バージョン
SPARC64 VI プロセッサ	XCP 1040	Solaris 10 11/06 (必須パッチ*適用済み) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII プロセッサ 2.4 GHz	XCP 1070	Solaris 10 8/07 (必須パッチ*) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII 2.4 GHz プ ロセッサ、8GB DIMM	XCP 1081	Solaris 10 8/07 (必須パッチ*) Solaris 10 10/08 (必須パッチなし)
SPARC64 VII プロセッサ 2.53 GHz	XCP 1090	Solaris 10 8/07 (必須の Solaris 10 10/09 パッチ バンドル適用済み) Solaris 10 10/09 (必須パッチなし)

* 8 ページの「Solaris パッチ要件」を参照してください。
最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com>を確認してください。

注 - すべてのリリースについて、SunAlert パッチクラスタのインストールをお勧めします。また、Solaris 10 10/09 パッチバンドルは MU8 と呼ばれています。

XSCF Web は、多くのウェブブラウザでサポートされます。このうち、XSCF Web の動作することが確認されているウェブブラウザは、表 1-2 のとおりです。

表 1-2 確認されたウェブブラウザのバージョン

ウェブブラウザ	バージョン
Firefox	2.0 および 3.0
Microsoft Internet Explorer	6.0、7.0、8.0

Solaris パッチ要件

この項では、M4000/M5000 サーバで必須となるパッチ、パッチバンドル、および Sun Alert パッチクラスタを示します。パッチ要件および特別なインストール手順については、必ずパッチの README を参照してください。

この項に示すパッチ ID は、インストールが必要なパッチの最小レベルを表しています。2 桁のサフィックスは、パッチの最小リビジョンレベルを表しています。最新パッチリビジョンがあるかどうか、<http://sunsolve.sun.com> を確認してください。パッチは、記載されている順序で適用します。

Solaris 10 5/09 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 10/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)

Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイトを参照してください。

<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>

Solaris 10 5/08 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサまたは SPARC64 VI プロセッサ、あるいは両方を使用)

パッチ 137137-09 – SunOS 5.10: カーネルパッチ。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.53 GHz プロセッサを使用)

- Solaris 10 10/09 パッチバンドルが必須で、SunAlert パッチクラスタが推奨されます。次のウェブサイト参照してください。
<http://sunsolve.sun.com/show.do?target=patches/patch-access>
- SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには、Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の 2 つの回避方法があります。
 - パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
 - OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

注 – 次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-62-252447-1>

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを使用)

次のパッチは、SPARC64 VII 2.4 GHz プロセッサを搭載した本体装置上の Solaris 10 8/07 OS に対してのみ必要です。パッチは、記載されている順序で適用します。

1. 119254-51 - SunOS 5.10: インストールおよびパッチユーティリティパッチ
2. 125891-01 - SunOS 5.10: libc_psr_hwcap.so.1 パッチ
3. 127755-01 - SunOS 5.10: Fault Manager パッチ
4. 127127-11 - SunOS 5.10: カーネルパッチ

Solaris 10 8/07 OS (パッチ 127127-11) は、通常の操作中にパニックまたはトラップすることがあります (CR 6720261)。この問題を回避するには、次のパラメータをシステム仕様ファイル (/etc/system) に設定する必要があります。

```
set heaplp_use_stlb=0
```

その後、ドメインをリブートしてください。

SPARC64 VII プロセッサが含まれるドメインには、Solaris 10 8/07 OS を新規インストールできません。この問題には、次の 2 つの回避方法があります。

- パッチがすべて適用されたイメージを作成し、Jumpstart を使用する。
- OS のインストールを SPARC64 VI プロセッサのみが含まれたドメインで開始し、必要なパッチを追加した後、ドメインに SPARC64 VII プロセッサを追加する。

Solaris 10 8/07 (SPARC64 VI プロセッサを使用)

なし。

Solaris 10 11/06



注意 – Solaris 10 11/06 OS を実行する SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバーの場合、Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> からダウンロードできます。

Solaris 10 11/06 OS には、次のパッチが必要です。これらの必須パッチを適用しても、Solaris 10 11/06 では SPARC64 VII プロセッサはサポートされません。次に示す順序でパッチをインストールします。

1. 118833-36 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
2. 125100-10 – その他のパッチ要件の一覧については、パッチの README ファイルを参照してください。
3. 123839-07
4. 120068-03
5. 125424-01
6. 118918-24
7. 120222-21
8. 125127-01 – 次に進む前にドメインをリブートしてください。
9. 125670-02
10. 125166-05

Solaris パッチの入手方法

Sunsm Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムをアップデートできます。Sun Connection Update Manager の詳細については、次の URL にある『Sun Update Connection System Administration Guide』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/updconn.sys>

または、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://wikis.sun.com/display/SunConnection/Update+Manager>

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれています。

システムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用して最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の 2 つの方法があります。

- Update Manager GUI を使用したパッチの入手詳細については、前述のリンクにある Sun Update Connection のドキュメントを参照してください。
- `smpatch(1M)` コマンドを使用したパッチの入手詳細については、`smpatch(1M)` のマニュアルページ、またはご使用のバージョンの Solaris OS のリファレンスマニュアル集を参照してください。

Emulex PCI Express (PCIe) カードのパッチ

次に示す Emulex カードは、パッチ 120222-26 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek™ Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-EM4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-EM4)

QLogic PCIe カードのパッチ

次に示す QLogic カードは、パッチ 125166-10 で提供されるドライバが必要です。

- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Dual-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE2FC-QF4)
- Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabit Single-Port Fiber Channel PCIe HBA (部品番号 SG-XPCIE1FC-QF4)

機能の問題と制限事項

この項では、本リリースにおける既知の問題について説明します。

SPARC64 VII プロセッサに関する制限事項



注意 – SPARC 64 VII プロセッサをシャーシに搭載する前に、XCP ファームウェアおよび Solaris OS のアップグレードを完了しておく必要があります。

一般的な機能の問題と制限事項



注意 – Dynamic Reconfiguration (DR) とホットプラグの問題については、[20 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」](#)を参照してください。

注 – Service Processor (SP) を Network Time Protocol (NTP) サーバとして使用しないでください。独立した NTP サーバを使用することによって、SP とドメインで時刻の一貫性を保つ上で最適な信頼性を得られます。NTP の詳細については、Sun Blueprint のマニュアル『Using NTP to Control and Synchronize System Clocks』(<http://www.sun.com/blueprints/0701/NTP.pdf>)を参照してください。

- 消費電力および排気量を表示する次の機能は、M4000/M5000 サーバではサポートされていません。表示される値はすべて無効です。
 - showenvironment(8) コマンドの power オペランドおよび air オペランド
 - XSCF Web

- 次のユーザーアカウント名は、システム用に予約されているため使用できません。
adm、admin、apache、bin、daemon、default、ldap、nobody、ntp、operator、proxyuser、root、rpc、rpcuser、sshd。
- XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。
- 外部電源制御装置の外部電源制御インターフェースを使用するとき、次の通知信号はサポートされていません。
 - OS パニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (*CPUN/RTNU)
 - 本体装置ハードウェア異常信号 (電源異常、温度異常、ファン異常) (*ALARM)
- XSCF を使用し、XCP をインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に Web session ID error が表示されることがあります。また、Autologout 設定でタイムアウト時間を 30 分以上で指定すると、Internal Server Error が表示されることがあります。現在のブラウザを閉じてから、新しいブラウザを開いて、XSCF Web に接続し直してください。
- この XCP リリースの場合、XSCF ブラウザユーザーインターフェース (XSCF Web) は、PCI ボックス管理機能をサポートしていません。
- SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバでのテープドライブユニットオプションについては、当社営業担当員にお問い合わせください。
- XSCF Web を使用する前に、ポップアップブロックを無効にして、ブラウザにインストールされている検索ツールなどのプラグインを削除してください。
- XSCF-LAN はオートネゴシエーションに対応しています。XSCF-LAN と接続するネットワーク機器は、オートネゴシエーションモードに設定してください。この設定を行わず、XSCF-LAN と全二重固定で設定されているネットワーク機器を接続した場合、IEEE802.3 の規約によって、XSCF-LAN は半二重モードで通信します。これにより、ネットワークの通信速度が遅くなったり、通信異常が発生したりする場合があります。
- DR と ZFS ファイルシステムの相互運用性の問題のため、M4000/M5000 サーバは UFS ファイルシステムを使用してプレインストールされ出荷されます。表 3-2 の CR 6522017 を参照してください。
- M4000/M5000 サーバは、停止交換で使用します。CPU モジュール (CPUM)、メモリボード (MEMB)、I/O ユニット (IOU)、または XSCF ユニットのホットスワップはサポートされていません。
- ドメインでサポートされるカードの数など、I/O オプションおよびストレージについては、次の Sun Cross Platform IO Support ページを参照してください。
<http://wikis.sun.com/display/PlatformIoSupport/Home/>

- PCI ボックスを使用してホストサーバを外部ブートディスクドライブに接続することは、サポートされていません。
- `setsnmp(8)` コマンドおよび `showsnmp(8)` コマンドが、許可の失敗をユーザーに通知しないことがあります。このような障害が発生した場合、SNMP トラップホストが動作していることを確認し、正しいユーザー名を使用してコマンドを再実行してください。

追加情報および手順

ここでは、本リリース時点でわかっている追加の問題および制限事項について説明します。

システムへのログイン

標準的なデフォルトのログインのほかに、本体装置では、`admin` と呼ばれる一時的なログインが可能な状態で出荷されます。これにより、シリアルポートを介したりモート初期ログインが可能になります。`admin` ユーザー権限は `useradm` 限定であり、変更はできません。標準の UNIX ユーザー名/パスワード認証または SSH 公開鍵認証を使用して一時 `admin` としてログインすることはできません。一時 `admin` アカウントにパスワードはなく、またパスワードをこのアカウント用に追加することもできません。

デフォルトのユーザーとしてログインした後や、一時 `admin` としてのログインにより有効なパスワードと権限を与えられた最初のユーザーが登録された後には、一時 `admin` アカウントは無効となります。

デフォルトのログインが使用される前に一時 `admin` としてログインできない場合には、`showuser -l` コマンドを実行することにより、他の誰かが上記の操作を実行していないか確認してください。

WAN ブートサーバーからのブート

WAN ブートインストール方法を使用すると、HTTP を使用してワイドエリアネットワーク (WAN) 経由でソフトウェアのブートとインストールを行うことができます。WAN ブートサーバーから M4000/M5000 サーバーをブートできるようにするには、適切な実行可能ファイル `wanboot` をインストールし、**OpenBoot™** バージョン 4.24.10 以降を使用して、必要なハードウェアがサポートされるようにする必要があります。

WAN ブートサーバの詳細については、使用している Solaris 10 OS のバージョンに対応する『Solaris 10 インストールガイド（ネットワークインストール）』を参照してください。Solaris 10 OS のドキュメントは次のウェブサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10?l=ja>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、本体装置でパニックが発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

Sun Java Enterprise System

Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアは、ソフトウェア投資を最大限に活用するソフトウェアサービスとライフサイクルサービスの包括的なセットです。ソフトウェアおよびインストール手順は、次のウェブアドレスにあります。

<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.jsp>

ソフトウェアには、ご使用の本体装置に必須のパッチが含まれていない場合があります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、[8 ページの「Solaris パッチ要件」](#)を参照してください。

概要およびドキュメントについては、次のウェブサイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/javaes/index.xml>

注 – Java Enterprise System 5 Update 1 をシステムにインストールすることによって発生する問題に対処するために、Web Console SMF サービスを有効にする必要が生じる場合があります。

▼ Web Console SMF サービスを有効にする方法

- 端末に root としてログインし、サービスを有効にします。

```
# svcadm enable svc:/system/webconsole:console
```

ソフトウェアの再読み込みが必要になった場合のダウンロードおよびインストール方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアの最新コピーをダウンロードした場合は、使用している本体装置に必要なパッチがそのソフトウェアに含まれていないことがあります。ソフトウェアのインストール後、システムに必須パッチが存在するかどうかを確認する手順については、8 ページの「Solaris パッチ要件」を参照してください。

システム内の縮退メモリの識別

▼ システム内の縮退メモリーを識別する方法

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showstatus
```

3. 次の例では、マザーボードユニット上の DIMM 番号 0A に縮退メモリーがあることがわかります。

```
XSCF> showstatus
      MBU_A Status: Normal;
      MEM#0A Status: Degraded
```

第2章

ハードウェアに関する情報

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのハードウェアに関する特記事項や問題点について説明します。

- 17 ページの「ハードウェアに関する問題と回避方法」
- 18 ページの「ハードウェアドキュメントの変更予定」

ハードウェアに関する問題と回避方法

単一の J4200 JBOD ストレージレイからの複数のシステムのブート

Sun Storage J4200 SAS JBOD アレイには、汎用 SAS コネクタが 6 個あります。FW バージョン 3A32 以降では、各コネクタを別々の SAS イニシエータに接続できるため、最大 6 台のシステムをアレイに接続できます。各システムは、アレイ上の個別のディスクをブートデバイスとして使用できます。J4200 アレイにはディスクが 12 個あるため、各ブートデバイスをミラーリングして信頼性を向上させることができます。J4200 アレイは、より安全な環境を提供するために、複数のゾーンに構成できます。

詳細については、次のウェブサイトにある Sun StorageTek Common Array Manager のソフトウェアドキュメントを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/stor.arrmgr#hic?l=ja>

特に、次のドキュメントを参照してください。

- 『Sun StorageTek Common Array Manager ソフトウェアリリースノート 6.4.1』
- 『Sun StorageTek Common Array Manager ユーザーズガイドオープンシステム用』

Sun Crypto Accelerator 6000 カード

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードドライバの適切なバージョンを使用していない場合、SCA 6000 カードでホットプラグ操作を行うと、M4000/M5000 サーバでパニックまたはハングが発生するおそれがあります。SCA6000 ドライバおよびファームウェアのバージョン 1.1 の場合、必要なブートストラップファームウェアのアップグレードを行うと、ホットプラグ操作が可能になります。SCA6000 ドライバのバージョン 1.0 は、ホットプラグをサポートしていません。ホットプラグは使用しないでください。

Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000 カードは、スロット 1 にはホットプラグしないでください。

U320 PCIe SCSI カード

U320 PCIe SCSI カード (部品番号 375-3357-01/02) は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの PCI カセットではサポートされていません。部品番号 375-3357-03 以降を使用する必要があります。

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明したハードウェアに関する重要な最新情報および変更予定を示します。プロダクトノート「ドキュメントの変更予定」などの項では、記述内の項タイトル、用語、表記を変更対象マニュアルのものに合わせる。

このドキュメントの発行時点では、ハードウェアドキュメントはすべて最新です。

第3章

ソフトウェアに関する情報

ここでは、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 19 ページの「XCP の問題と回避方法」
- 20 ページの「Solaris OS に関する問題と回避方法」
- 34 ページの「ドキュメントの変更予定」

パッチを入手する方法、およびこれらの問題を修正するパッチが入手可能かどうかを確認する方法については、次のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sunsolve.sun.com>

XCP の問題と回避方法

この項では、XCP 1092 リリースにおける XCP に関する既知の問題を示します。XCP 1090 または 1091 ファームウェアを使用している場合は、『Sun SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバプロダクトノート』のこの項で、該当するファームウェアバージョンに関する情報を参照してください。

表 3-1 に、XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3-1 XCP の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
6789066	settimezone -c adddst コマンドで、タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前に 8 文字以上を設定した場合、showlogs コマンドを実行すると、セグメンテーションの障害が発生し、エラーになります。	タイムゾーンの短縮形およびサマータイムの名前は、7 文字以下で指定します。

Solaris OS に関する問題と回避方法

この項では、Solaris OS に関する問題について説明します。次の表に、Solaris OS で発生しうる問題を使用リリース別に示します。

サポートされているすべてのリリースの Solaris OS に関する問題

すべてのリリースの Solaris OS で発生しうる問題を、表 3-2 に示します。ドメインが最新の Solaris リリースを実行していない場合は、使用中のリリースよりも新しいリリースで修正されている CR（以降の各表を参照）にも留意してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (1/4)

CR ID	説明	回避方法
4816837	中断状態で SP DR のパラレルホットプラグ操作を実行したときに、システムがハングします。	回避方法はありません。
6459540	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバに接続された DAT72 内蔵テープドライブユニットが、テープの処理中にタイムアウトすることがあります。 またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	以下の定義を、/kernel/drv/st.conf に追加してください。 tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000", "SEAGATE_DAT____DAT72-000"; SEAGATE_DAT____DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; SEAGATE DAT と DAT72-000 の間には半角スペースが 4 つ必要です。
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	ZFS ARC の最大サイズを小さくしてください。詳細については、当社技術員にお問い合わせください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (2/4)

CR ID	説明	回避方法
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。	サービスを再起動してください。この問題を事前に回避する場合は、以下のコマンドを実行してください。 <pre># svccfg -s dscp setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop \ start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6588650	M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーで、バックアップ XSCF との間の XSCF のフェイルオーバー後に DR 操作ができない場合があります。	回避方法はありません。
6592302	DR 操作が失敗すると、メモリが一部未設定のままになります。	addboard -d コマンドを使用してボードをドメインに戻すことによって、復旧できる場合があります。復旧できない場合は、deleteboard(8) を再実行してください。

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (3/4)

CR ID	説明	回避方法
6660168	<p>ドメイン上で <code>ubc.piowbeue-cpu</code> エラーが発生すると Solaris Fault Management <code>cpumem-diagnosis</code> モジュールが失敗し、FMA サービスが停止することがあります。</p> <p>これが発生すると、コンソールログに以下の例のように出力されます。</p> <pre>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Apr 4 21:41:57 PDT 2008 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2020642002, HOSTNAME: <hostname> SOURCE: fmd-self-diagnosis, REV: 1.0 EVENT-ID: 6b2e15d7-aa65-6bcc-bcb1- cb03a7dd77e3 DESC: A Solaris Fault Manager component has experienced an error that required the module to be disabled. Refer to http://sun.com/msg/FMD- 8000-2K for more information. AUTO-RESPONSE: The module has been disabled. Events destined for the module will be saved for manual diagnosis. IMPACT: Automated diagnosis and response for subsequent events associated with this module will not occur. REC-ACTION: Use <code>fmdump -v -u <EVENT-ID></code> to locate the module. Use <code>fmadm reset <module></code> to reset the module.</pre>	<p><code>fmd</code> サービスが停止した場合は、復旧させるために、ドメイン上で以下のコマンドを実行してください。</p> <pre># svcadm clear fmd</pre> <p>その後、<code>cpumem-diagnosis</code> を再起動します。</p> <pre># fmadm restart cpumem-diagnosis</pre>
6668237	<p>DIMM を交換しても、該当する DIMM の故障がドメインから消去されません。</p>	<p><code>fmadm repair <i>fnri uuid</i></code> を使用して修復を記録してください。その後、<code>fmadm rotate</code> コマンドを使用して残りのイベントを消去します。</p>

表 3-2 サポートされているリリースすべての Solaris OS に関する問題と回避方法 (4/4)

CR ID	説明	回避方法
6674266 および 6611966	DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作が失敗することがあります。 ドメインに表示されるメッセージの例を次に示します。 drmach: WARNING: Device driver failure: /pci dcs: <xxxx> config_change_state: Hardware specific failure: unconfigure SB1: Device driver failure: /pci	DR 操作を再実行してください。
6745410	システムをブートしないようにする Kadb オプションが、ブートプログラムで無視されます。	kadb の代わりに kmdb を使用してください。
6872501	XSCF によって要求された場合、コアがオフラインになりません。この CR の対象となるのは、Solaris 10 5/09 リリースおよび Solaris 10 10/09 リリースのみです。	サービスプロセッサ上で、-v オプションを指定して fmdump(1M) を使用し、障害のあるコアを識別します。識別した後、ドメインで psradm(8) を使用してコアをオフラインにします。
6888928	IPMP インターフェースで、プローブパッケージがそのインターフェースを通じて送信されていない場合に問題が発生します。問題が発生するのは、M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバで Solaris 10 10/09 OS および IPMP を実行している場合、またはパッチ 141444-09 がインストールされたいずれかの Solaris リリースで IPMP を実行している場合です。	プローブベースの障害検出を無効にします。InfoDoc 211105 (86869) を参照してください。

Solaris 10 10/09 で修正された Solaris の問題

表 3-3 に、Solaris 10 10/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-3 Solaris 10 10/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6572827	prtdiag -v コマンドで PCI バスのタイプが間違っていて出力されます。It reports PCI-X リーフデバイスは「PCI」、レガシー PCI デバイスは「UNKN」と表示されます。	回避方法はありません。
6800734	ドメインで deleteboard がハングします。	回避方法はありません。
6816913	XSCF の showdevices コマンドで、端数のプロセッサキャッシュサイズに対して間違ったプロセッサキャッシュサイズが表示されます。たとえば、正しい表示が「5.5MB」である場合に、「5MB」と表示されます。	ドメインで prtdiag(1M) コマンドを使用して、プロセッサ情報を出力してください。
6821108	DR および showdevices が、XSCF のレポート後に動作しません。	XSCF サービスプロセッサを 2 回リポートします。最初のレポートで SA の半数が削除され、2 回目で残りの半数が削除されます。2 回目の追加は成功して、IPSec 通信が再確立されます。
6827340	SCF コマンドのエラーによって、DR およびメモリ巡回に失敗することがあります。	回避方法はありません。

Solaris 10 5/09 で修正された Solaris の問題

表 3-4 に、Solaris 10 5/09 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-4 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/2)

CR ID	説明	回避方法
6588555	カーネルメモリで DR 操作中に XSCF をリセットすると、ドメインがパニックすることがあります。	DR 操作の進行中は、XSCF リセットを起動しないでください。DR 操作が完了するのを待ってから、リセットを開始します。
6623226	Solaris コマンドの lockstat(1M) または dtrace lockstat プロバイダで、システムパニックが発生することがあります。	Solaris の lockstat(1M) コマンドおよび dtrace lockstat プロバイダを使用しないでください。

表 3-4 Solaris 10 5/09 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/2)

CR ID	説明	回避方法
6680733	負荷が高い状態で、Sun Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP (QGC) および Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) NIC がパニックすることがあります。	可能な場合は、カードを x8 スロットで使用します。このように構成できない場合、回避方法はあります。
6689757	単一の XFP 光トランシーバまたは正しく取り付けられていない XFP 光トランシーバで Sun Dual 10 GigE Fiber XFP Low Profile Adapter (XGF) を使用すると、次のエラーがコンソールに表示されることがあります。 The XFP optical transceiver is broken or missing.	両方の XFP 光トランシーバが筐体にしっかりと装着されていることを確認してください。INTEL と Sun の XFP 光トランシーバを同じアダプターに混在させないでください。 ポートに XFP 光トランシーバが含まれていない場合、またはポートに XFP 光トランシーバが含まれていても未使用の場合は、ifconfig コマンドでポートを精査しないでください。

Solaris 10 10/08 で修正された Solaris の問題

表 3-5 に、Solaris 10 10/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/3)

CR ID	説明	回避方法
6511374	エラーが多すぎてメモリバンクが無効になった場合は、ブート中にメモリ変換の警告メッセージが表示されることがあります。	システムのリブート後に、 <code>fmadm repair</code> コマンドを使用して、次回ブート時に問題が再現しないようにできます。
6533686	XSCF でシステムリソースが不足している場合、カーネルメモリを移動する <code>DR deleteboard</code> または <code>moveboard</code> 操作が、次に示す 1 つ以上のエラーで失敗することがあります。 SCF busy DR parallel copy timeout この問題が発生するのは、マルチドメインのホストである Quad-XSB 構成のシステムボードだけです。	後で、DR 操作を再実行してください。

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/3)

CR ID	説明	回避方法
6556742	<p>DR 操作中に DiskSuite が metadb を読み取ることができないと、システムがパニックします。このバグは次のカードに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Dual-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-e Single-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Dual-Port Fiber Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4-Gigabyte PCI-X Single-Port Fiber Channel HBA 	<p>metadb の複製コピーに別のホストバスアダプターを介してアクセス可能であれば、パニックは回避できます。</p>
6589833	<p>SAP プロセスが Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA カード (SG-XPCIE2FC-QF4) に接続された記憶装置にアクセスしようとしているときにこのカードを追加しようとする、DR addboard コマンドによりシステムがハングするおそれがあります。ネットワークトラフィックが多い状況で以下のカードを使用していると、システムがハングする危険が大きくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。</p>
6608404	<p>X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP カードをホットプラグ操作でスロット 1 に取り付けると、他のネットワークデバイスに障害が発生する場合があります。</p>	<p>この問題を事前に回避するには、このカードをスロット 1 に取り付けないようにしてください。</p>
6614737	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR deleteboard(8) および moveboard(8) 操作がハングすることがあります。 DIMM が縮退している。 ドメインに含まれる各システムボードのメモリサイズがそれぞれ異なっている。</p>	<p>次のいずれかの状況が存在する場合、DR 操作を実行しないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 縮退メモリー – システムに縮退メモリーが含まれているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showstatus を使用します。 • 異なるメモリーサイズ – ドメインに含まれる各システムボードのメモリーサイズがそれぞれ異なっているかどうかを確認するには、XSCF コマンド showdevices またはドメインで prttdiag コマンドを使用してメモリーサイズのリストを表示します。 <p>DR コマンドがハングした場合は、復旧させるためにドメインをリブートしてください。</p>

表 3-5 Solaris 10 10/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/3)

CR ID	説明	回避方法
6632549	ドメインでの <code>fmd service</code> が、DR 操作後に保守モードの開始に失敗することがあります。	ドメインで次のコマンドを実行します。 # <code>svcadm clear fmd</code>
6660197	次のいずれかの状況が存在する場合、DR によってドメインがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ドメインに 256 以上の CPU が含まれている。 メモリエラーが発生し、DIMM が縮退している。 	<ol style="list-style-type: none"> 次のパラメータをシステム仕様ファイル (<code>/etc/system</code>) に設定する必要があります。 <code>set drmach:drmach_disable_mcopy = 1</code> ドメインをリブートしてください。
6679370	システムのブート中、ホットプラグを使用した PCI ボックスの追加中、または DR による FMEMA の操作中に、次のメッセージがコンソールに出力されることがあります。	<code>/etc/system</code> に次の行を追加し、ドメインをリブートしてください。 <code>set pcie_expected_ce_mask = 0x2001</code>
	<pre>SUNW-MSG-ID: SUN4-8000-75, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Critical ... DESC: A problem was detected in the PCIExpress subsystem. Refer to http://sun.com/msg/SUN4-8000-75 for more information. ...</pre>	
6720261	ドメインで Solaris 10 5/08 OS が稼働している場合、通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	次のパラメータをシステム仕様ファイル (<code>/etc/system</code>) に設定します。 <code>set heaplp_use_stlb=0</code> その後、ドメインをリブートしてください。

Solaris 10 5/08 で修正された Solaris の問題

表 3-6 に、Solaris 10 5/08 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/4)

CR ID	説明	回避方法
6348554	<p>以下のカードで <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、コマンドがハングアップするおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• SG-XPCIE2FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA• SG-XPCIE1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA• SG-XPCI2FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-X HBA• SG-XPCI1FC-QF4 – Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-X HBA	<p>影響を受けるカードでは、<code>cfgadm -c disconnect</code> 操作を実行しないでください。</p>
6472153	<p>M4000/M5000/M8000/M9000 サーバー以外の sun4u サーバー上に Solaris フラッシュアーカイブを作成し、それをこれらのサーバーのいずれかにインストールすると、コンソールの TTY フラグが正しく設定されません。このため、負荷がかかっているときにコンソールに文字が表示されなくなる場合があります。</p>	<p>Solaris フラッシュアーカイブから Solaris OS をインストールした直後に M4000/M5000/M8000/M9000 サーバーに telnet で入り、コンソールの TTY フラグを以下のようにリセットします。</p> <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 \ hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は 1 回だけ実行してください。</p>
6522433	<p>リポート後の CPU 障害によって、<code>fmdump</code> が正しいマザーボードを識別できないことがあります。</p>	<p>XSCF のシステムステータスを確認してください。</p>
6527811	<p>XSCF 上で <code>showhardconf(8)</code> コマンドを使用すると、PCI ホットプラグを使用して PCI ボックスが設定されていても、PCI ボックスにインストールされている PCI カード情報を表示することができません。</p>	<p>回避方法はありません。PCI ボックス内の各 PCI カードが PCI ホットプラグを使用して設定されていれば、PCI カード情報は正しく表示されます。</p>

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/4)

CR ID	説明	回避方法
6536564	showlogs(8) および showstatus(8) コマンドが、別の I/O コンポーネントを報告することがあります。	<p>この問題を事前に回避するには、を実行してください。次の分節と要調整</p> <p>ドメインで以下のコマンド前の分節と要調整</p> <pre># cd /usr/platform/SUNW,SPARCenterprise \ /lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd</pre> <p>次のメッセージが表示された場合は、当社技術員までご連絡ください。</p> <p>SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc</p>
6545143	ユーザースタックアドレスの TLB ミスのトラップ処理中にシステムパニックがまれに発生することがあります。この問題は、フラッシュウィンドウトラップ (ta 3) を実行するユーザープロセスと同時に、ユーザースタックの対応付けが解除される場合に発生する可能性があります。パニックメッセージには、次の文字列が含まれています。 bad kernel MMU trap at TL 2	回避方法はありませぬ。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<p>/etc/system で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やしてから、システムをリブートします。</p> <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 20000</pre>
6546188	以下のカード上でホットプラグ (cfgadm) および DR 操作 (addboard および deleteboard) を実行すると、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありませぬ。

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/4)

CR ID	説明	回避方法
6551356	<p>未設定のカードを設定するためにホットプラグ (cfgadm) を実行すると、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、「警告: PCI 拡張 ROM にアクセスできません」というメッセージがコンソール上に表示されます。次のカードがこのバグの影響を受けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>カードを完全に取り外すには、<code>cfgadm -c disconnect</code> を使用します。10 秒以上待ってから、<code>cfgadm -c configure</code> コマンドを使用してカードの設定をドメインに戻すことができます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、<code>nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn</code> という形式のメッセージがコンソールに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>以下のカードでホットプラグ操作を行った場合、カードを切断してその直後に再接続すると、ホットプラグ操作が失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z – Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z – Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra 320 SCSI HBA 	<p>カードを切断した後、数秒待ってから再接続してください。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用しているときにカーネルメモリを搭載したボードに対して DR deleteboard 操作を実行すると、接続が切れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>DR 操作が完了してから、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本的なネットワーク設定手順については、<code>ifconfig</code> のマニュアルページを参照してください。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常に終了した後、次のネットワークインターフェースが使用されていると、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p><code>/etc/system</code> に次の行を追加し、システムをリポートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>

表 3-6 Solaris 10 5/08 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4/4)

CR ID	説明	回避方法
6571370	<p>実験環境でストレス試験を実行した結果、以下のカードでデータ破壊が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に次の行を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6589546	<p>prtdiag は、次のカードのすべての I/O デバイスを表示するわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Dual-Port Fiber Channel PCI-E HBA • SG-XPCIE1FC-EM4 Sun StorageTek Enterprise Class 4-Gigabyte Single-Port Fiber Channel PCI-E HBA 	<p>完全出力には <code>prtdiag -v</code> を使用してください。</p>
6663570	<p>最小番号の CPU に関連する DR 操作によって、ドメインでパニックが発生することがあります。</p>	<p>最小の CPU ID を持つ CPU をホストするシステムボードを、DR を使用して取り外さないでください。最小の CPU ID を持つ CPU を識別するには、Solaris <code>prtdiag</code> コマンドを使用します。</p>

Solaris 10 8/07 で修正された Solaris の問題

表 3-7 に、Solaris 10 8/07 OS で修正された問題を示します。これより前のリリースでは、これらの問題が発生する可能性があります。

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (1/4)

CR ID	説明	回避方法
6416224	<p>単一の NIC カードの接続数が 5,000 を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>複数の NIC カードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。</p>
6441349	<p>I/O エラーでシステムがハングすることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6485555	<p>レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。</p>	<p>回避方法はありません。</p>

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (2/4)

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>修正不能なエラー (UE) パニックの発生後、「cpumem-diagnosis」モジュールのロードが失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、このモジュールを使用する FMA によって通常は自動診断されるイベントが手動診断を要求します。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ffem7-d0</p>	<p>問題がすでに発生している場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. cpumemdiagnosis ファイルを削除してください。 <code># rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis \ /cpumem-diagnosis</code> 2. fmd service を再起動してください。 <code># svcadm restart fmd</code> <p>この問題を事前に回避するには、ファイル /lib/svc/method/svc-dumpadm に次の行を追加します。</p> <pre># savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumemdiagnosis \ /cpumem-diagnosis #</pre>
6495303	<p>PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの IOU スロット 1 で使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>このカードを IOU スロット 1 で使用しないでください。</p>
6498283	<p>ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6499304	<p>予期しないメッセージがコンソールに表示され、修正可能なエラー (CE) が多数発生しても CPU はオフラインになりません。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCF の CPU ステータスを確認してください。</p>

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (3/4)

CR ID	説明	回避方法
6502204	CPU UE パニックの発生後のブート時に、予期しないエラーメッセージがコンソールに表示されることがあります。 例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1- 16-d0	予期しないメッセージが表示された場合は、 showdomainstatus(8) コマンドを使用して、XSCF のシステムステータスを確認してください。
6502750	増設または減設されたホットプラグの PCI カードが通知メッセージを出力しないことがあ ります。	回避方法はありません。
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーロ グに多数記録されることがあります。	これらのエラーをマスクするには、次のエントリを /etc/system に追加し、システムをリブートして ください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001
6508434	PCI ホットプラグを使用して PCI-X カードを増 設または交換すると、ドメインがパニックする ことがあります。	PCI ホットプラグを使用して、異なるタイプの PCI-X カードを同じ PCI スロットに増設しないでください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラ カード (SG-(X)PCIE2SCSIU320Z) を使用してい るとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6520990	ドメインがリブートしたとき、SCF が同じ物理 ボードを共有している他のドメインにサービスを 提供できないことがあります。DR 操作がデ フォルトのタイムアウト時間を超え、パニック が発生する可能性があります。	次の記述を /etc/system に設定して DR タイムア ウト時間を大きくし、システムをリブートします。 set drmach:fmem_timeout = 30
6530178	DR addboard コマンドがハングすることが あります。問題が検出されると、それ以上の DR 操作はブロックされます。復旧にはドメイン のリポートが必要です。	回避方法はありません。
6530288	cfgadm(1M) コマンドが Ap_Id フォーマットを 正しく表示しないことがあります。	回避方法はありません。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはト ラップすることがあります。	パッチが入手可能でない場合は、カーネルの大きな ページの sTLB プログラミングを無効にしてくださ い。/etc/system ファイルで、heaplp_use_stlb 変数を 0 に変更してください。 set heaplp_use_stlb=0

表 3-7 Solaris 10 8/07 で修正された Solaris OS の問題と回避方法 (4/4)

CR ID	説明	回避方法
6535564	DR によって追加された XSB で、PCI スロット #0、#1、または PCI ボックスに対する PCI ホットプラグが失敗することがあります。	XSB の PCI カードを増設または減設する必要がある場合は、PCI ホットプラグの代わりに DR を使用してください。
6539084	ドメインに Sun Quad GbE UTP x8 PCIe (X4447A-Z) カードが存在する場合、リポート中にドメインのパニックがまれに発生することがあります。	回避方法はありません。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10-Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	ドライバ接続に失敗すると、PCIe モジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。

ドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントの出版後に判明した最新情報、またはごく最近に追加された最新情報を示します。

注 - オンラインのマニュアルページは、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル』よりも頻繁に更新されます。

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニ ュアル』

次の変更は、2009年8月に発行されたこのドキュメントの XCP 1090 版には反映されていません。

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (1/3)

マニュアルページ	変更内容
Advanced Directory および LDAP/SSL マニュアルページ	setad(8)、setldapssl(8)、showad(8)、および showldapssl(8) の各機能に関連する 4 つの新しいマニュアルページが追加されました。man(1) コマンドを使用すると、これらのマニュアルページをオンラインで参照できます。
adduser(8)	次の情報が追加されました。「ユーザーアカウントデータに Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、Active Directory、または LDAP/SSL を使用するようにサービスプロセッサで設定されている場合、ユーザー名と UID (指定されている場合) は、ローカルでまたは LDAP、Active Directory、LDAP/SSL で未使用のものでなければなりません。」
applynetwork(8)	曖昧さを回避するために変更されました。
ioxadm(8)	新しい情報が追加されました。
password(8)	曖昧さを回避するために値の範囲が変更されました。ほとんどが 1 から 999999999 の範囲です。
setdscp(8)	次のテキストが追加されました。 「指定されたネットマスクは、ネットワーククラスを基にした、デフォルトネットマスクのサブセットでなければなりません。」
setdualpowerfeed(8)	次の記述が追加されました。「100V 電源の M4000/M5000 サーバーでは、二系統受電モードを使用できません。」
sethostname(8)	拡張機能説明に情報が追加されました。
sethttps(8)	拡張機能説明に次の内容が追加されました。 「sethttps(8) によって生成されるファイルのサイズは、自己証明書発行局の設定、自己署名付き Web サーバー証明書の作成、および CSR の作成時にオペランドに入力した合計文字数に合わせて大きくなります。生成されたファイルが XSCF に対して大きすぎる場合は、コマンドは失敗してエラーが発生します。このエラーが発生した場合は、オペランドの文字数を減らして sethttps(8) コマンドを再度実行してください。」
setldap(8)	次の内容が追加されました。「XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。」

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (2/3)

マニュアルページ	変更内容
setnameserver(8)	<ul style="list-style-type: none"> オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 オプションに、次のオプションが追加されました。 指定されたドメイン名を DNS 検索パスに登録する新しいオプション -c addsearch -c delsearch <p>DNS 検索パスの追加に伴い、DNS 検索パスに関する説明が <code>applynetwork(8)</code>、<code>sethostname(8)</code>、および <code>shownameserver(8)</code> に追加されました。詳細については、XCP 1091 リリース以降のこれらのマニュアルページのオンラインバージョンを参照してください。</p>
setnetwork(8)	<p>オプションの <code>-m</code> が変更され、オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、クラス D または E (224.0.0.0 - 255.255.255.255) アドレスを指定することはできません。」</p> <p>また、<code>xscf#0-lan#0</code> および <code>xscf#0-lan#1</code> に関する情報が追加されました。</p>
setntp(8)	<ul style="list-style-type: none"> オペランドに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 オプションに XSCF のローカルクロックを設定するための次のオプションが追加されました。 <code>-m localaddr=value</code> <p>クロックアドレスの追加に伴い、ローカルアドレスに関する説明が <code>showntp(8)</code> に追加されます。詳細については、<code>setntp(8)</code> および <code>showntp(8)</code> マニュアルページのオンラインバージョンを参照してください。</p>
setpacketfilters(8)	<p>この新しいマニュアルページは XCP 1092 リリースで追加されました。</p>
setpasswordpolicy(8)	<p>曖昧さを回避するために値の範囲が変更されました。ほとんどが 1 から 999999999 の範囲です。</p>
setroute(8)	<ul style="list-style-type: none"> オプションに次の内容が追加されました。 「ループバックアドレス (127.0.0.0/8)、ネットワークアドレス、またはブロードキャストアドレスを指定することはできません。」 オプションが次のように変更されました。 これまでのテキスト - 「<code>-n</code> オプションで 0.0.0.0 を指定した場合は、<code>-m</code> オプションを指定しないでください。」 新しいテキスト - 「<code>-n</code> オプションで 0.0.0.0 を指定した場合は、<code>-m</code> オプションで 0.0.0.0 を指定するか、<code>-m</code> オプションを省略してください。」
setupfru(8)	<p>拡張機能説明に次の内容が追加されました。 「M8000/M9000 サーバーでは 2 つの CPUM を搭載している CMU を Quad-XSB モードに設定できます。ただし、CPUM およびメモリーが搭載されていない XSB については、「configuration error」メッセージが生成されます。」</p>

表 3-8 XSCF リファレンスマニュアル (3/3)

マニュアルページ	変更内容
setupplatform(8)	次の内容が追加されました。「XSCF ユーザーアカウントのユーザー名を LDAP ユーザー名と同じ名前にすることはできず、XSCF ユーザーアカウント番号 (UID) を LDAP UID 番号と同じ番号にすることはできません。」
showdevices(8)	<p>拡張機能説明に次の内容が追加されました。</p> <p>「Solaris OS のブートまたは DR 操作の直後に showdevices(8) コマンドを実行すると、デバイスの完全なリストが表示されます。ただし、それ以外のときに、使用されていないデバイスのドライバの読み込みが Solaris OS によって解除されていると、showdevices を実行してもデバイスの完全なリストは表示されません。完全なリストが表示されるようにするには、showdevices を実行する前に、ドメインで -v オプションを指定して devfsadm コマンドを実行します。devfsadm コマンドの詳細については、Solaris の devfsadm(1M) のマニュアルページを参照してください。」</p>
showenvironment(8)	<p>次の情報が追加されました。</p> <p>「通気量情報は、M4000/M5000 サーバーではサポートされていません。」</p> <p>次のようにテキストが変更されました。</p> <p>これまでのテキスト - 「M3000/M4000/M5000 サーバーでは消費電力情報が表示されます。」</p> <p>新しいテキスト - 「M3000 サーバーでは消費電力情報が表示されます。」</p>
showhardconf(8)	使用例に、DC 電源を搭載した M3000 サーバーの例が追加されました。PCI カード情報と -M オプションも追加されています。
showlogs(8)	<p>次の内容が追加されました。</p> <p>-M オプション、拡張機能説明のステータスおよび詳細ログ/パワーログに関する新しい情報、および電源異常/復旧に対するその他の参照。</p>
showpacketfilters(8)	この新しいマニュアルページは XCP 1092 リリースで追加されました。

『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/ M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』

このドキュメントの 2009 年 8 月版では、次に示す変更が行われたか、または未変更のままになっています。

表 3-9 ドキュメントの変更予定

項目	変更内容
Active Directory および LDAP/SSL	追加されていません。これらのプロダクトノートの 2 ページの「 Active Directory および LDAP/SSL 」を参照してください。
XSCF ユニット/ファームウェアのアップデート	<p>8.1.10 章では変更されていません。</p> <p>以下の項の手順 2 と 3 を差し替えてください。</p> <ul style="list-style-type: none">「XSCF ユニットの交換したときに XSCF ファームウェアをアップデートする (XSCF ユニットが 1 つのシステムの場合または XSCF ユニットが二重化構成のシステムで両方を交換した場合)」「マザーボードユニット (MBU) を交換したとき XCP ファームウェアをアップデートする (M3000 サーバの場合)」 <p>次の手順に置き換えます。</p> <p>2. 交換用のユニットと交換されるユニットのバージョンが異なる場合、メッセージが表示されます。この場合、ファームウェアは自動的にアップデートされません。オペレーターによるファームウェアバージョンの番号合わせが必要です。</p> <p>3. アップデートを行う場合、「外部媒体から XCP をアップデートする」または「ネットワークから XCP をアップデートする」の手順に従います。アップデートが完了した後、バージョン確認を行います。</p>